

もう工具は無くさない！！素晴らしい管理システムのご紹介

いつも記事をお読みいただき、ありがとうございます。日々、明石支所で207系や321系の車両メンテナンスをしているシュンです。

今回は、JR西日本テクノスが考案したRFIDタグによる工具管理について、具体的に紹介したいと思います。

鉄道業界においても工具管理は、大変気にしている部分です。例えば、屋根上に工具を置き忘れてしまったら、どうなるでしょうか。それが100km/h近い速度で走行中に落下してしまうと……。想像するだけで怖いです。

工具の確認時間が結構かかります

私が働いている明石支所での工具管理は、個人に貸与されているものと、共用のものがあります。私の工具は、こんな感じです。ドライバーやペンチは腰に付けるホルダーに、スパナなどは工具箱に入れていきます。



私が使用している個人用の工具

工具がきちんと揃っているかどうか、ホルダーに入れる工具は一目で分かりますが、工具箱に入れる工具は、確認に結構、時間がかかるんですね。

共用の工具は簡単に確認できるよう、写真のように並べて保管しています。ここから工具を持っていく場合はホワイトボードに記入して、一日の最後に工具が全てあるか、確認する仕組みです。



一目でわかるよう保管されている共用の工具

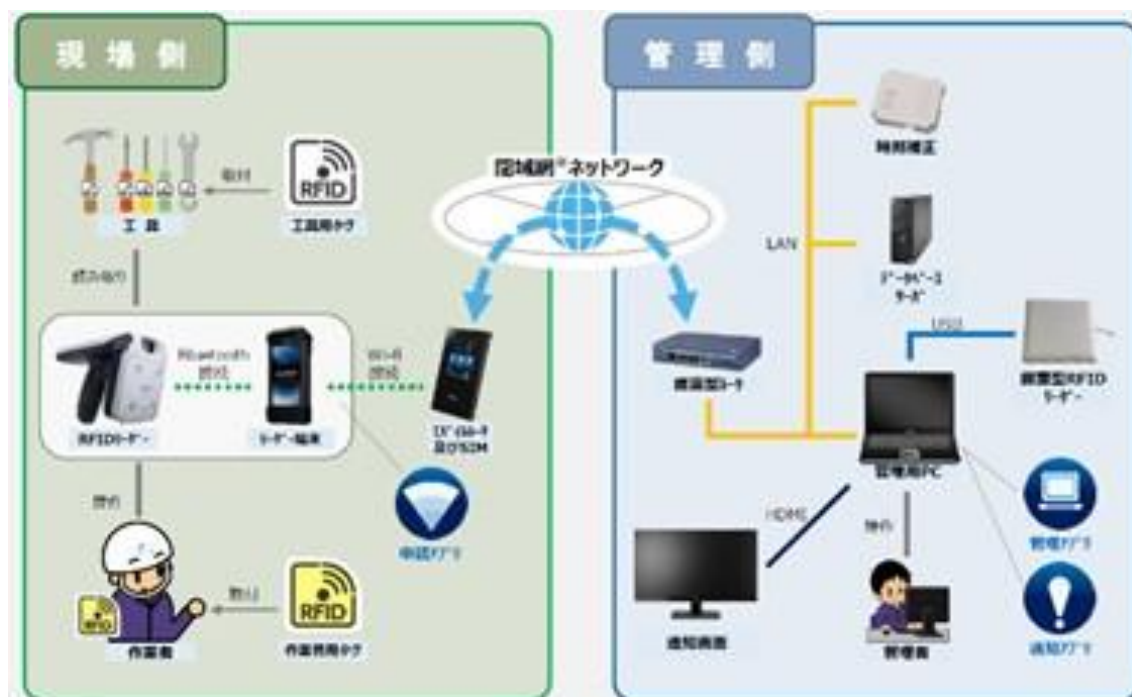
一瞬で読み取る RFID タグ

RFID タグですが、無線でデータを読み取れるタグです。

身近なところでいうと無人コンビニなどで使われています。商品に RFID タグをつけておくと、レジにて一瞬で商品を読み取り、すぐに会計が出来ます。

では、JR 西日本テクノスが考案した RFID タグによる工具管理システムを見ていきましょう。

皆さん想像してみてください。工具確認する時に数が足りずにぞっとする瞬間を。また、置き忘れた工具を必死に探し回る様子を。車両の床下や線路に置き忘れていたら大変です。そんな工具の置忘れもこのシステムを導入すれば全て解決します。



RFID タグを使った工具管理システム構成図。

まず、個人や工具の情報を登録した RFID タグをそれぞれ作成し、社員証や工具に貼り付けます。

工具を持ち出すときは、個人情報登録した RFID タグをリーダーに読み込ませたのち、工具の RFID タグをリーダーに読み込ませます。

工具返却も、同様の手順で完了。誰が、いつ、何を持ち出したか、返却されていない工具がないか、一目でわかるというシステムです。

RFID タグは、ロット数にもよりますが、価格は安いもので数円と低いです。

このシステムを今回、実際に体験してみました。

続きは“鉄道専用”SNS「Railil (レイリル)」をご覧ください。
Railil の詳細とダウンロードは以下のリンクよりご確認いただけます。

Railil : <http://www.jrw-inv.co.jp/business/railil/>